



公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町6番9号 丸藤ビル201号

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: office@jfmga.com

令和3年6月28日

正会員団体 御中

公益社団法人日本山岳ガイド協会
代表理事 理事長 武川 俊二

第4回 新型コロナウイルス感染症における影響に関するアンケート集計結果

昨年春より特別委員会コロナ対策プロジェクトチームを発足させ、新型コロナウイルス感染に対する対応をおこなっております。

このたび5月に、コロナ渦中の1年を経て会員の皆様に向けて改めてガイド業務の実施状況等についてのアンケート調査を実施いたしましたので、その集計結果をご報告いたします。

なお、このアンケートにより会員の皆様が業務遂行にあたり大変厳しい状況下にあることが浮き彫りとなりましたことから、急遽、関連する諸官庁に対して、業務環境の改善を目途とした「要望書」を、同じく厳しい経営環境下にある北アルプス山小屋協会と連名で発出することといたしましたことも、併せてご報告させていただきます。

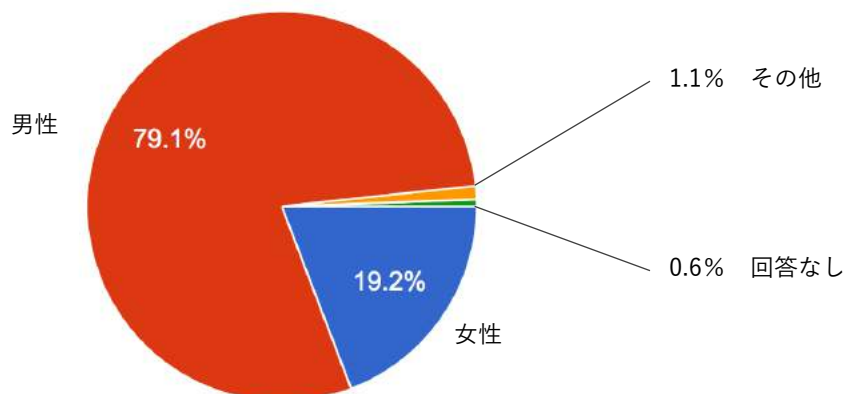
公益社団法人 日本山岳ガイド協会

第4回 新型コロナウイルスにおける影響に関するアンケート

178件の回答

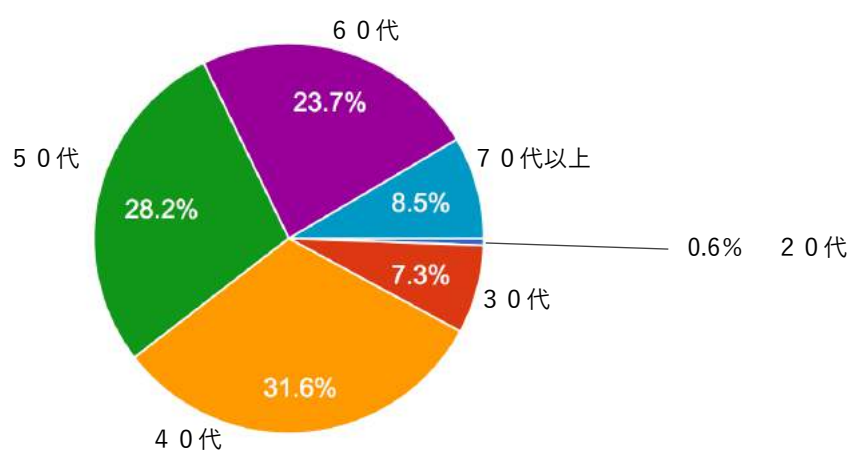
1. 性別を教えてください。

177件の回答



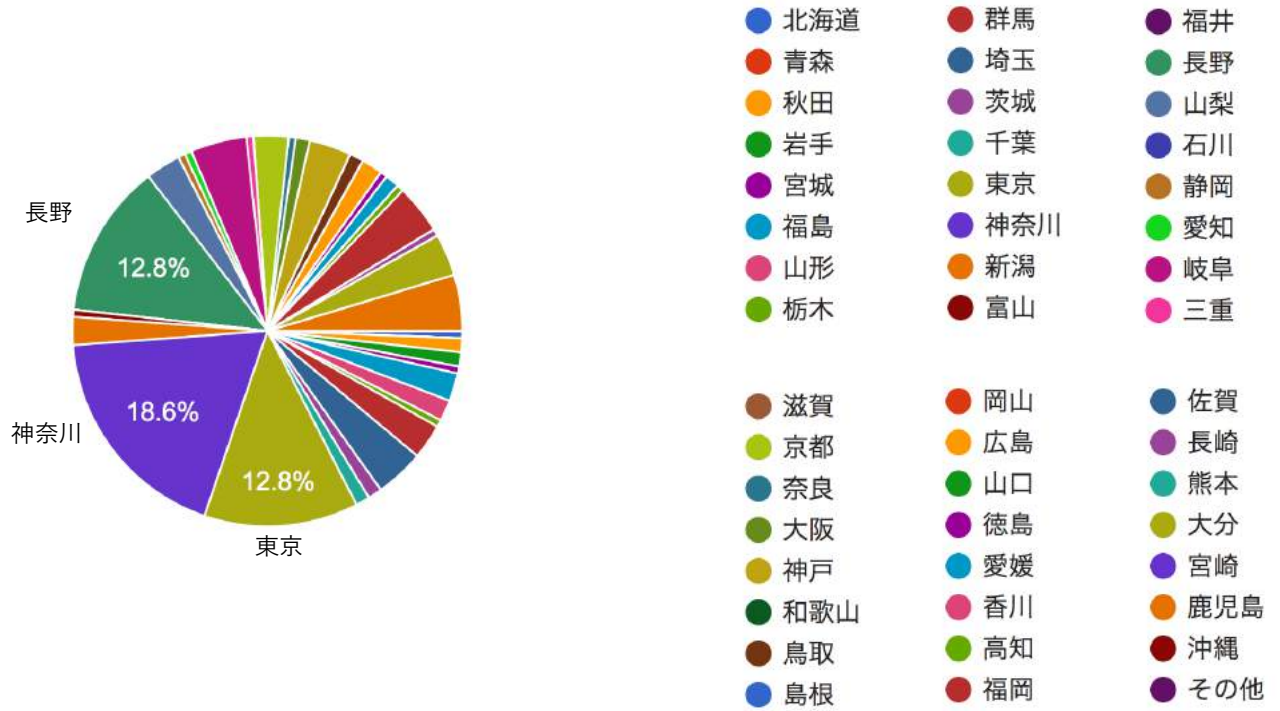
2. 年代を教えてください。

177件の回答



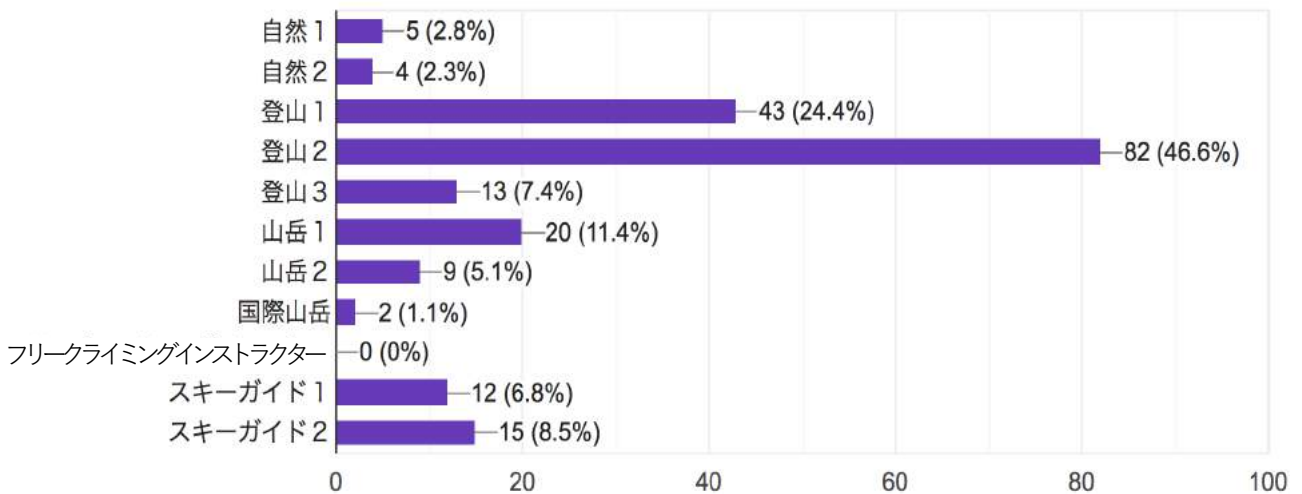
3. 居住都道府県を教えてください。

172件の回答



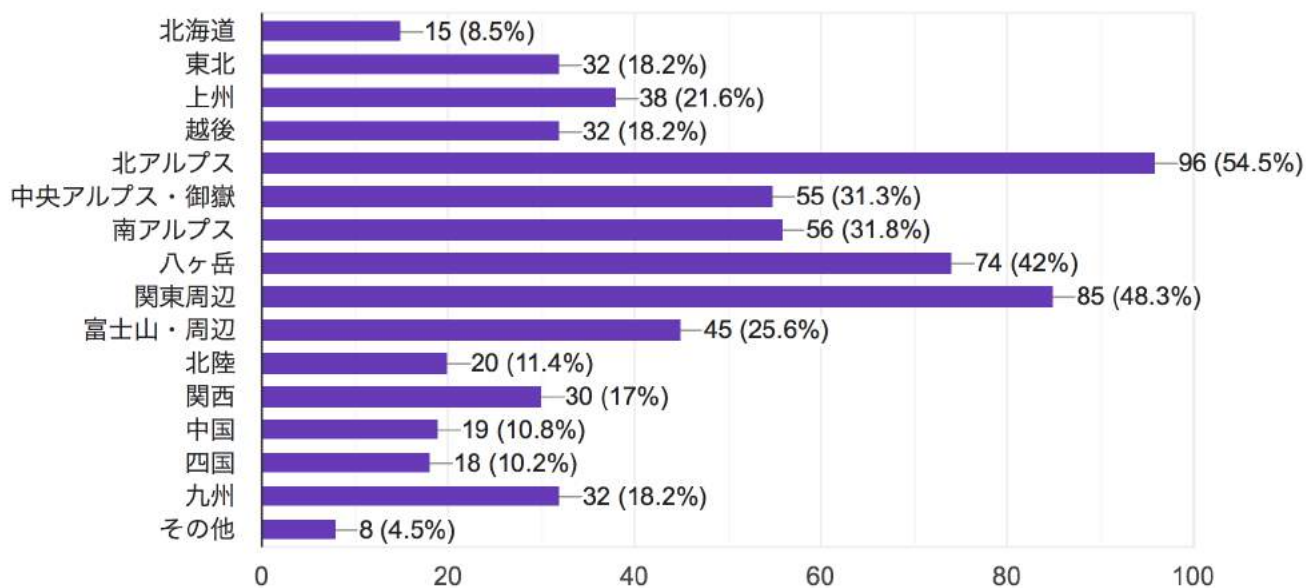
4. ガイド種別を教えてください。（複数回答可）

176件の回答



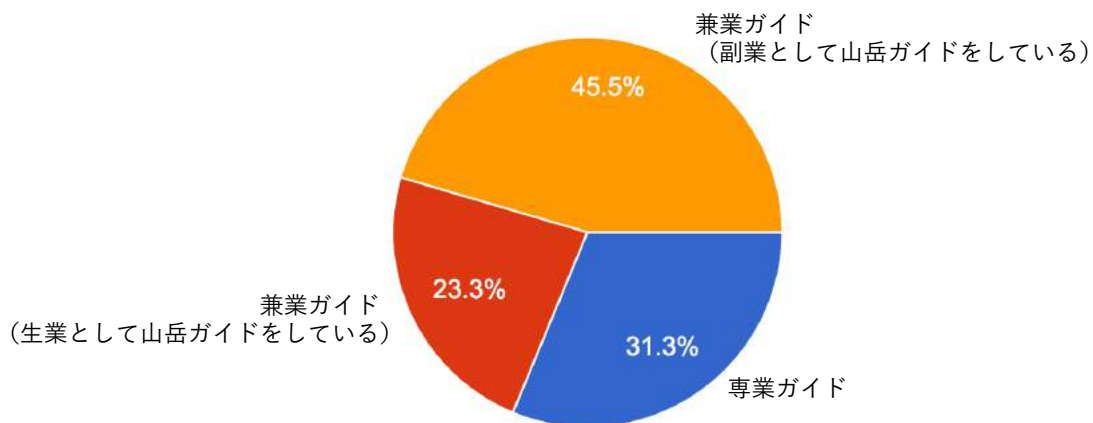
5. 主な活動エリアを教えてください。（複数回答可）

176件の回答



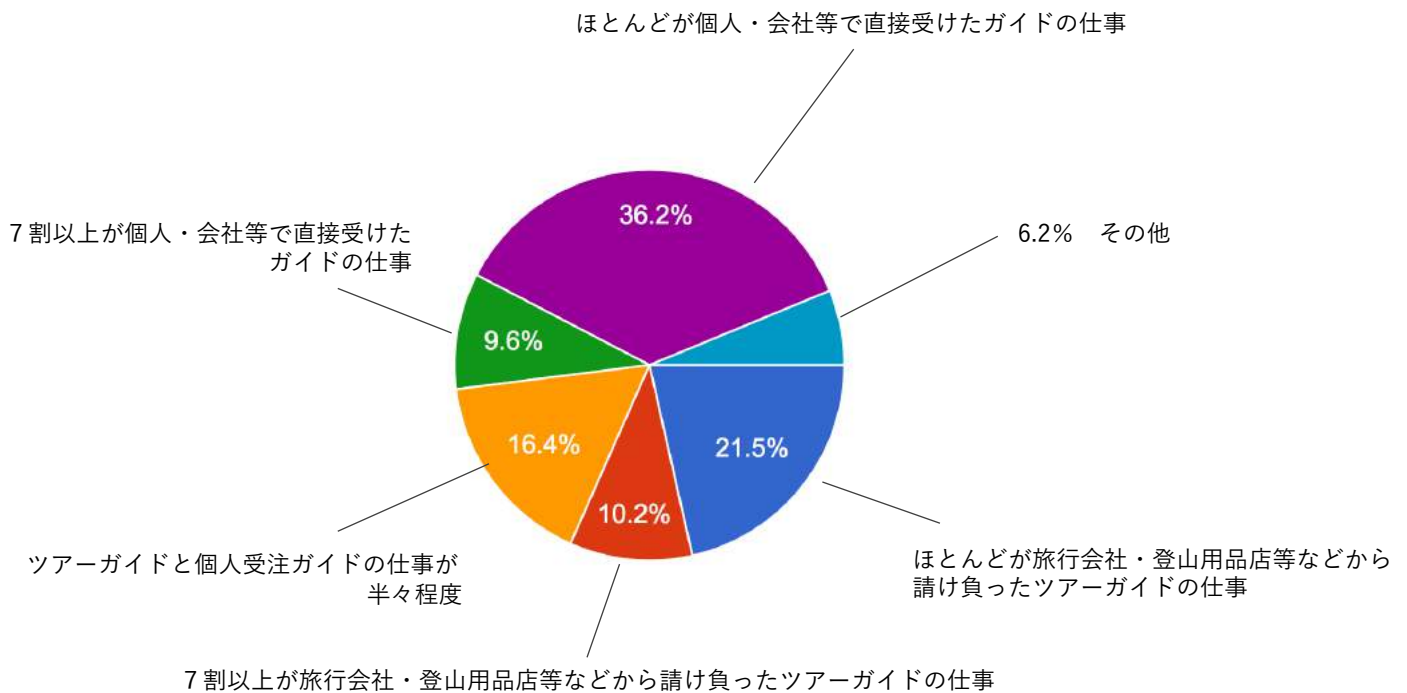
6. 専業／兼業ガイド どちらですか？

176件の回答



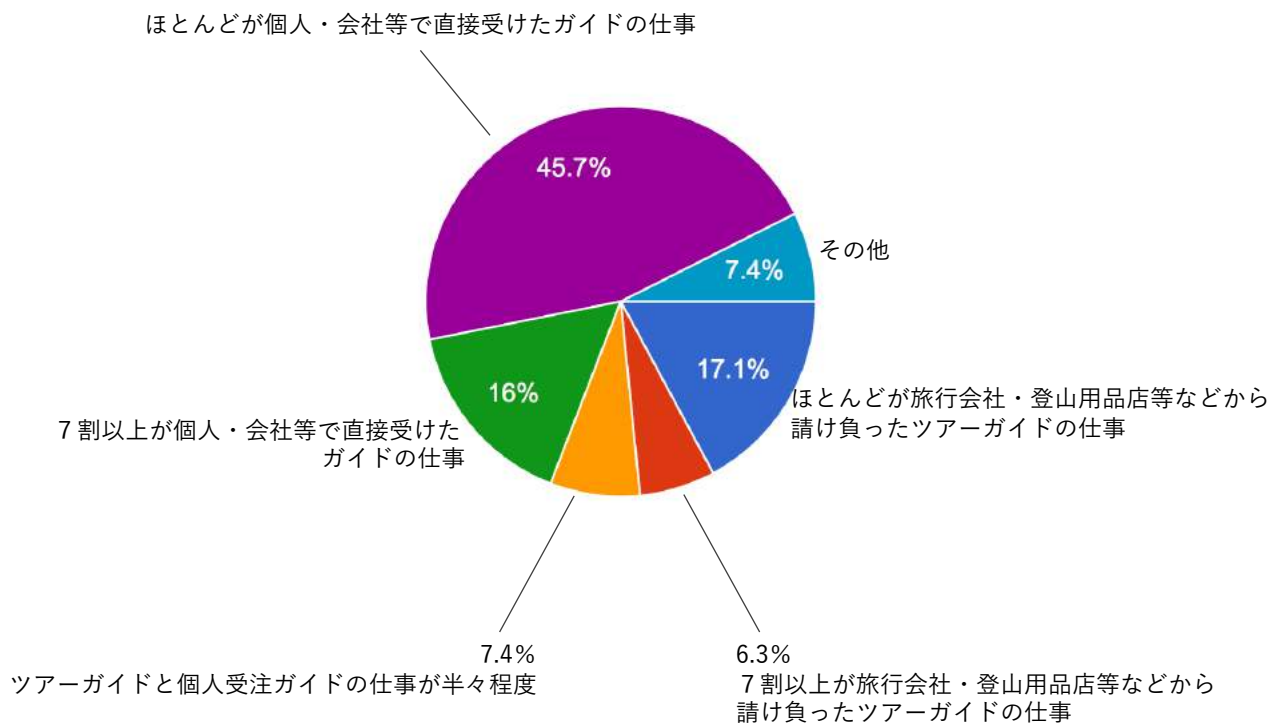
7. コロナ禍以前の顧客層の割合を教えてください。

177件の回答



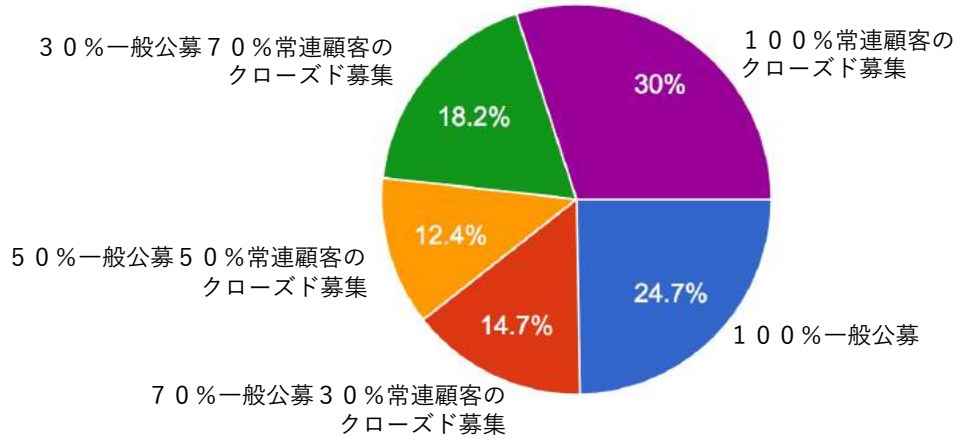
8. withコロナにおける顧客層の割合を教えてください。

175件の回答



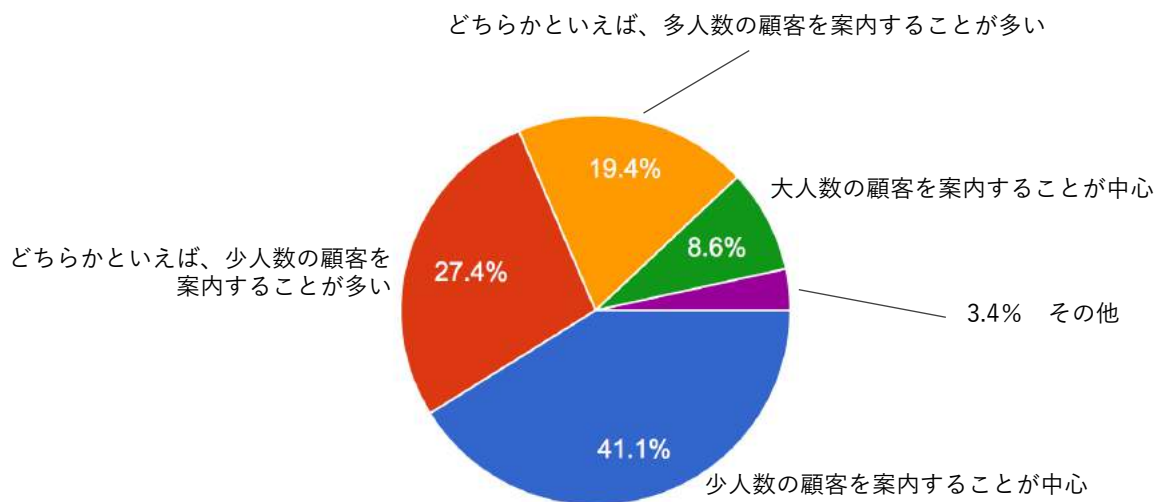
9. 個人顧客の集客形態について教えてください。

170件の回答



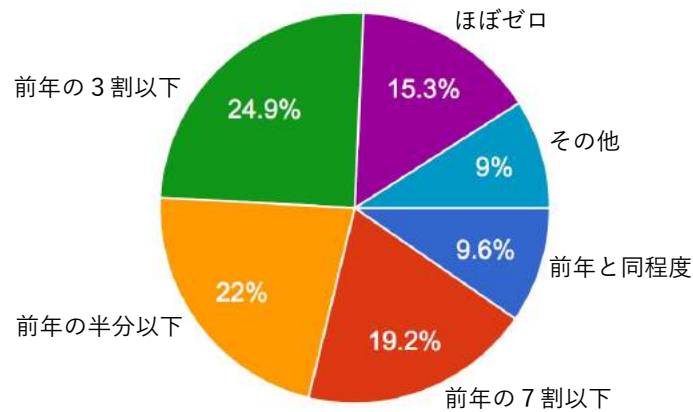
10. コロナ禍以前の業務スタイルに最も近いものを選んでください。

175件の回答



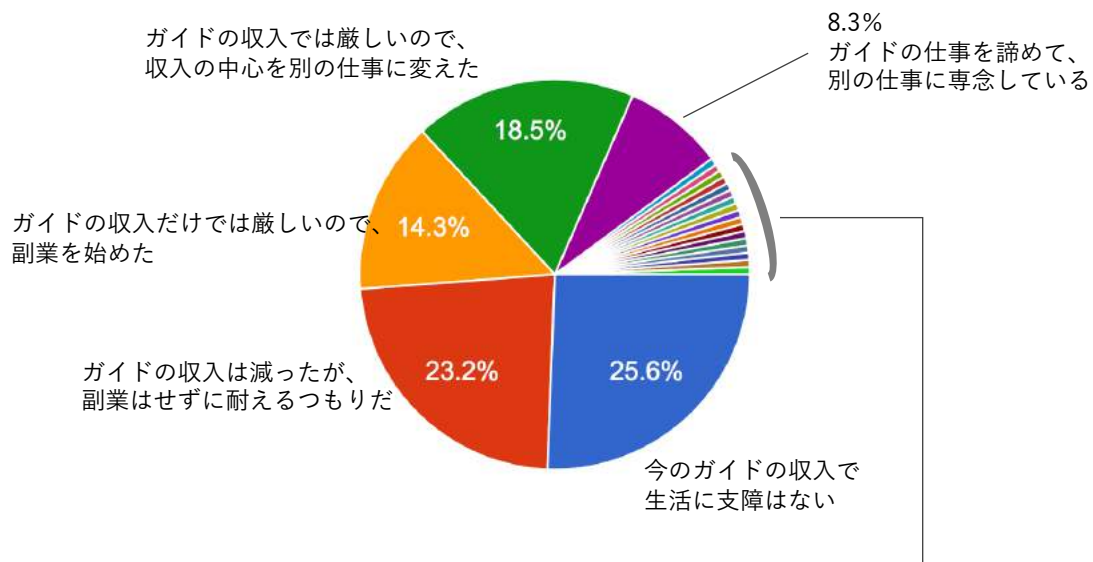
1 1. 2020年のガイド業務における収入は前年(2019年)と比較しどの程度ですか？

177件の回答



1 2. ガイド収入の落ち込みについて、現在の状況に最も近いものを選んでください。

168件の回答

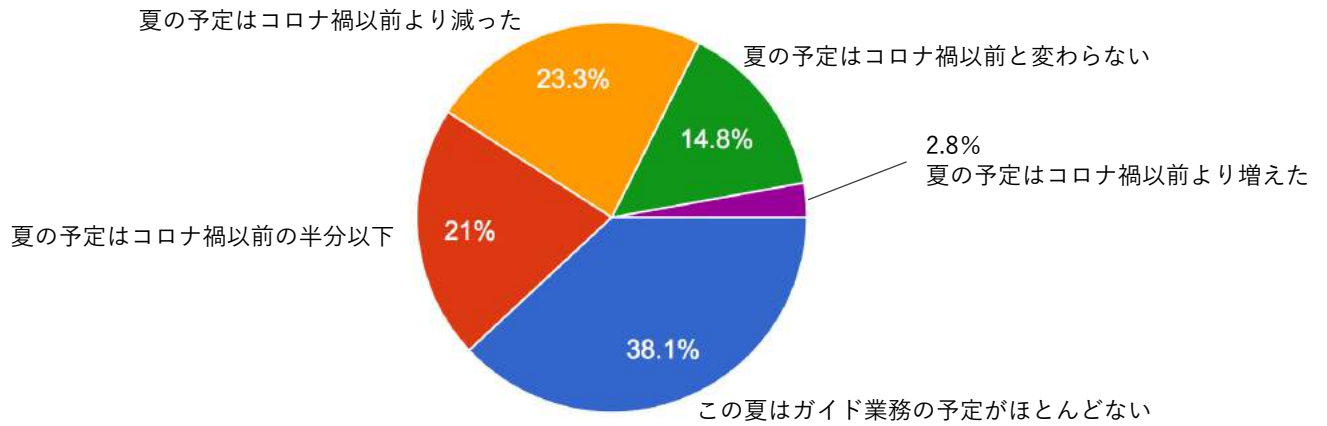


- 収入の中心は別にあるので、ガイドの収入はあてにしない
- 元々ガイドは副業なので、主たる仕事で収入UPできるよう努めている。
- 主な仕事が減ったので顧客を中心としたガイドを増やすアルバイトしてる
- 借金
- 共働きゆえ妻の収入と貯え、借り入れ等でなんとかしのいでいる。
- ガイド収入が厳しいので別の仕事も模索中
- 定期的なガイド以外の収入がもともとあったので、あまり支障はない

- 給付金を頂きながらガイド収入で生活している。
- 本業があり、ガイドを副業としているのはコロナ以前と変わらない
- 元々が兼業なので、そちらにシフトしているだけ
- 登山ハイキングの専門旅行社を退職し、別業態の企業に転職した。
- 兼業としてのガイド収入が激減した
- 兼業ガイドにつき問題なし
- ガイドの仕事が副業
- 副業の割合を増やした。
- 数種の業をしており、ガイド収入は若干減ったが働き方は変わらない

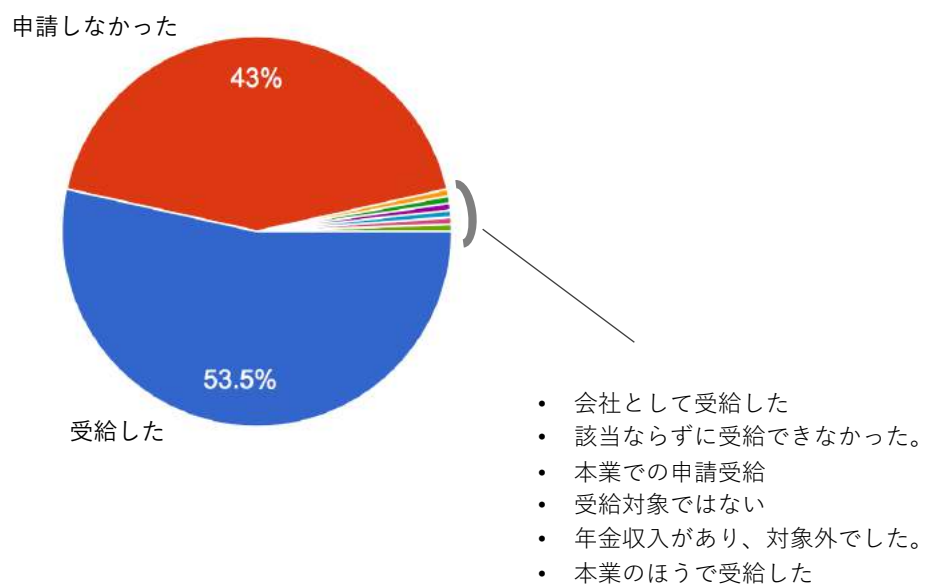
13. 5月以降のガイド業務の見通しについて、最も近いものを選んでください。

176件の回答



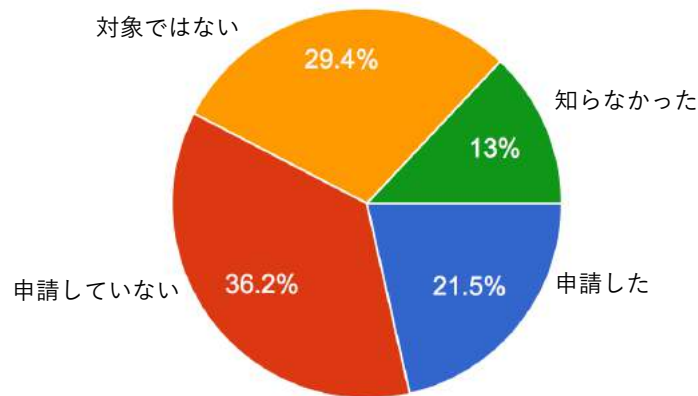
14. 昨年度に持続化給付金を受けたか、受けなかったか、教えてください。

172件の回答



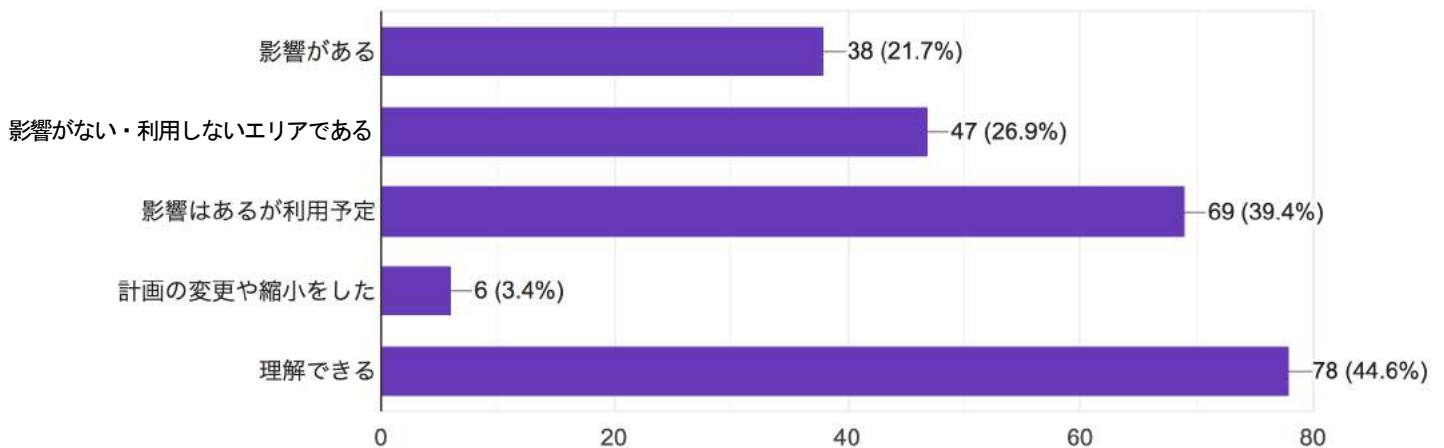
15. 2021年の緊急事態宣言の影響緩和に係る一時支援金の給付について(5/31締切)教えてください。

177件の回答



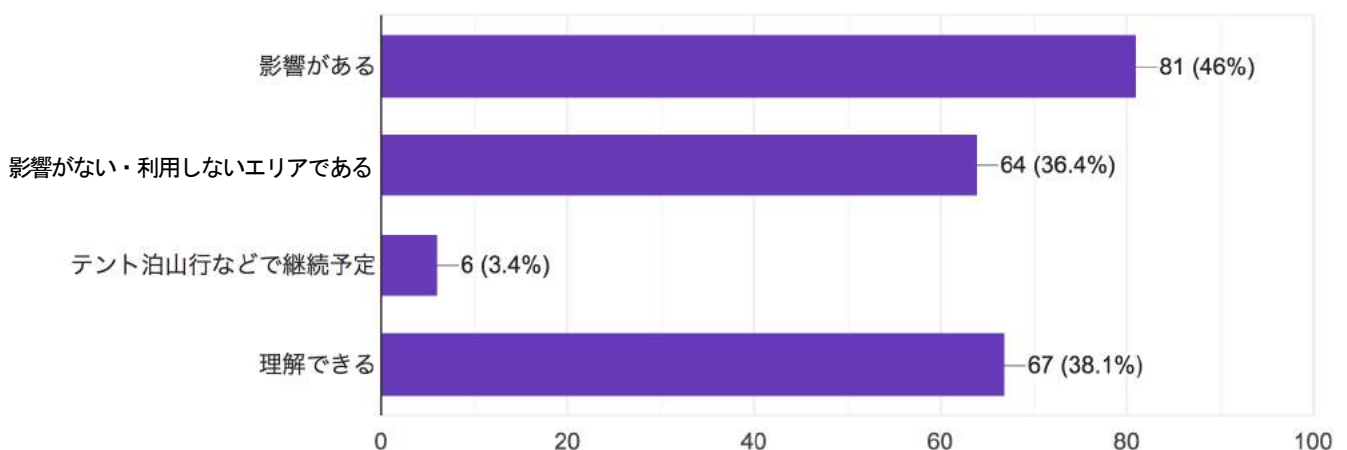
16. 北アルプスを中心に山小屋宿泊料金が値上げされたが、自分のガイド事業に影響を与えますか？ (複数回答可)

175件の回答



17. 昨年より南アルプス山域の山小屋の休止が広がっているが、自分のガイド事業に影響はありますか？ (複数回答可)

176件の回答



18. 各地での山小屋等の休止、収容人数の縮小、登山道等の整備不足など、コロナ禍において影響を感じる登山インフラについて気になること、行っている事などがあれば教えてください。

72件の回答

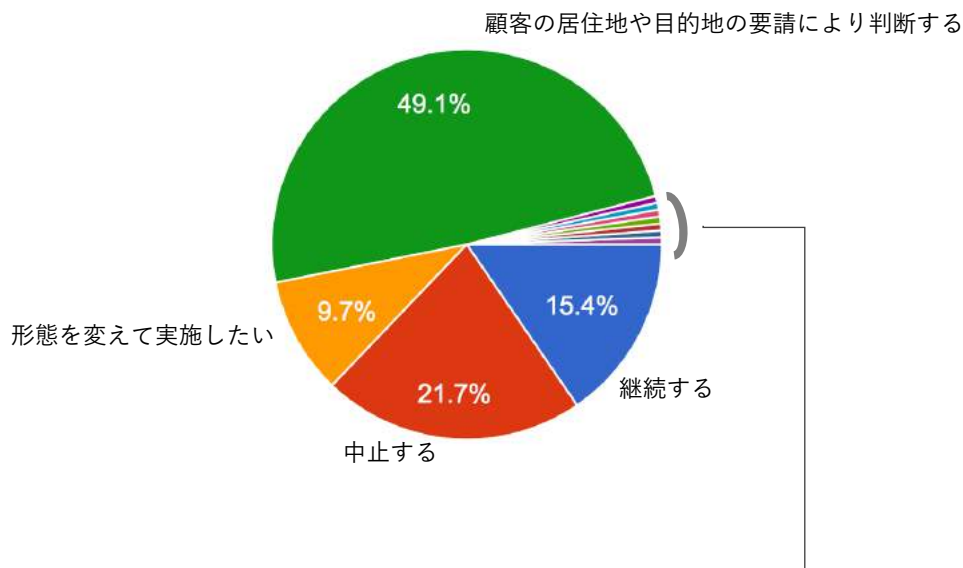
- ・ 収容人数の縮小
- ・ アプローチの林道の復旧遅れは計画の制限を受けている
- ・ 有償・無償を問わず、空いた時間が多いので登山道整備などに協力している
- ・ 麓の民宿、旅館を利用するようになった
- ・ 公共交通機関の間引き運行やガイド割引の依頼
- ・ 予約業務が増えた。予約しそびれるとスケジュールが成立しないので、かなり気を使っている。
- ・ 登山道整備の支援
- ・ インフラではないが、登山道で野生生物(ツキノワグマ)の痕跡を見ることが多くなった。
- ・ 天候を判断して直前に予約することが難しい場面が発生してきた
- ・ 予約及びキャンセルがしにくくなる。
- ・ 昨年度、所属する正会員団体が、環境省誘客推進補助金事業に事業提案し採択され、コロナ期間中の登山道調査/整備や環境保全活動を所属ガイドに割当て、収入確保への取組みを実施した。環境省は本年度も同様の補助金事業を実施しており、所属する正会員団体は今回も事業提案を行っている。
- ・ 山小屋に宿泊する場合は、お客様には以前よりも早いお申し込みをお願いしている。
- ・ 登山道整備不足になり、危険が増す懸念が大
- ・ できる範囲でできる事をする
- ・ 信仰登山が本来の日本の登山であるから観光登山が衰退することは歓迎する
- ・ 山小屋や登山道などのインフラが維持できるか気になるところだが、同時に、今くらいの入り込み数で山の経済が回るような仕組み作りが進んでいけば、山の自然にとってはよいことだと思う。
- ・ 山小屋が取りにくい
- ・ ガイドがない分登山道の整備に時間を使っている
- ・ 完全予約で山小屋が広く使えるのはよい。
- ・ 登山道の整備が追いついていない
- ・ 早期に満室となる可能性をクライアントに周知している。
- ・ コロナによって生じた行政の補助事業で、登山道の整備を行う事を始めた
- ・ 山小屋が休業なのでルート変更が多い。
- ・ 避難小屋利用が、行政からコロナ禍で利用控える旨案内があるが、実際には使用している人が多い。テント場の拡充などを行政にやって欲しい。
- ・ 登山道の荒廃。山小屋が休止することでの、遭難捜索・救助体制の不備
- ・ 一部のツアーにおいては交通費及び宿泊料金の値上げにより催行が厳しい状況にあるツアーについては代金値上げを依頼し出来るだけ中止を回避する方法で検討中
- ・ 寝具の件
- ・ 特に影響はなさそう
- ・ 寄付をした
- ・ 登山情報がコロコロ変わること、確認作業が激増しました。
- ・ 寝袋持参による利用者負担(備品購入、重量)が増えること。
- ・ ガイド予定の早期確定と山小屋予約管理の徹底
- ・ 南アルプスの山小屋、登山道への影響について情報取得が難しく、ガイドینگに不安を感じる。各地、各山小屋の最新状況を一元確認出来るサイトがあればなお良い。
- ・ 山小屋がビジネスとして成り立たず、廃業に追い込まれないか心配
- ・ 登山道の整備不足
- ・ コロナにより休止しているインフラ事業者が、コロナ後に今までのように回復する体力があるのか。これを機に閉鎖などになってしまうのではないかという不安。
- ・ 登山道の情報が不足
- ・ 公共交通期間の停止が気になる
- ・ 顧客がいても山小屋の予約が取れる保証がない。
- ・ コロナが完全に撲滅(風邪レベル)まで山小屋経営は無理でしょう 登山インフラとしての期待はしていない。
- ・ 顧客の体力低下が気になり。
- ・ 山小屋のコロナ対策
- ・ 収容人数の縮小、キャンセル料の発生など、天候に日日程、行程の変更がしづらくなる点。
- ・ 一般のお客様は山小屋利用なので人数を少数制限で利用させてもらいたい。
- ・ 登山道等の整備不足;修復の遅れ等。
- ・ ガイドツアーを確定させるため早めに山小屋を予約する。予約内容に変更がある場合は山小屋に迷惑をかけないようにするためすぐに連絡をする。
- ・ 登山道等の整備不足
- ・ テント場予約の有無による混雑とトラブル
- ・ 山小屋の予約が必要(予約できない) 登山道の整備不足
- ・ 山文化が衰退しないよう積極的に小屋を利用するようにしている
- ・ 小屋の予約が取りづらく、計画が難しい。
- ・ 山小屋の経営は大変で登山道及び情報が出来ないと危惧している
- ・ アプローチをはじめ登山道の悪化が中々良くならない。
- ・ 事前予約(定員制限)の山小屋運営の場合、今のコロナ禍ではやむえないが、縦走型の小屋利用の場合、天候・体調等で日程が予定とおりに進まない場合があり、コロナ後は予約は必要でも縦走型の日程変更への柔軟な対応をしていただけるような予約運営システムだと有難いです。
- ・ 登山道の痛みは激しいが一部を直して利用しているところもある。
- ・ 地元の地元客が中心なので特に影響はありません

〈次のページへ続く〉

- ワクチン接種が終わり効果が出るまではガイドは縮小する
- 山小屋の休止、収容人数の縮小
- 通常より一度にガイドする人数を減らし、密にならないよう、あるいは山小屋の予約が取りやすいように工夫している
- バスの運行が無くなったり、減便があったりして交通手段が厳しい場所があります。山小屋の予約も人数制限の為、直近ですとりにくいです。
- バスや、ロープウェイなどのどうしてもどうしても接触しないといけない状態を危惧する。テント泊の値段も上がった。
- コロナを機に、廃道になったり、閉山してしまう山域が出てくるのではないか？という懸念があります
- 要職についている顧客が多いため、感染対策を第一に考えており、山小屋泊が必要な登山計画などを提案していません。
- その他（なし、特になし等々）

19. 夏を前に再び「緊急事態宣言」が発出された場合、期間中ガイド業務をどうされますか？

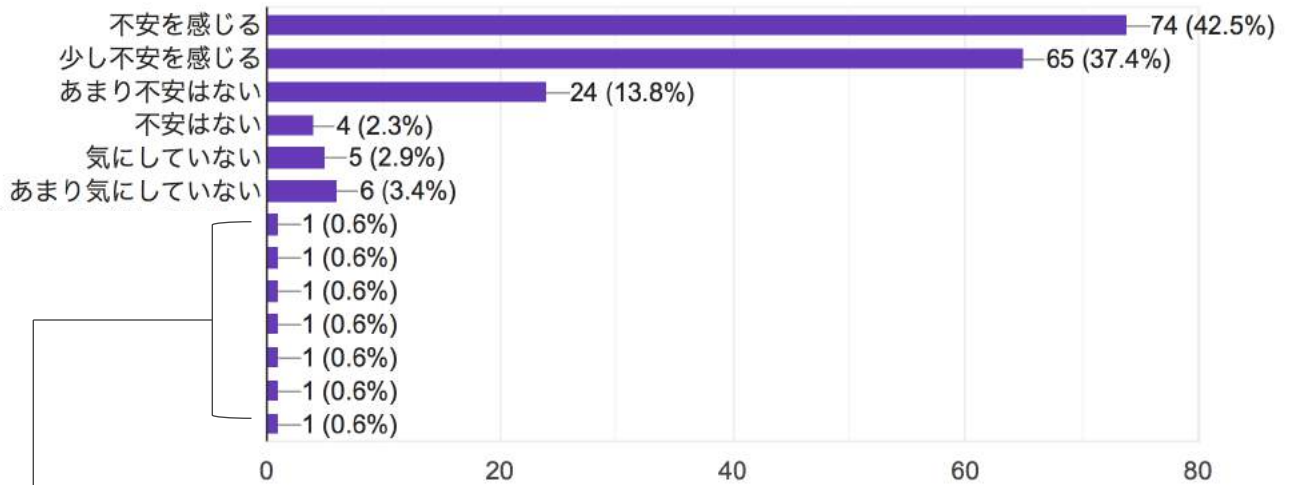
175件の回答



- そもそも予定がない
- 外注で行うことがほとんどなので、断れる限りは断りたい。
- 所属会社の方針に従う
- 集客ツアーガイドの仕事です会社の方針に従います
- できる範囲で継続したい。
- 協会から考えて行動せよという指示があるので、宣言下地域ガイドなら中止しかない。
- 地元で活動しているため、都心部の実のみの発令で、地元が緊急事態宣言にならなければこれまで通り継続する。地元にも発令されたら、形態を変えて実施

20. ガイド業務を行うにあたり、自身や顧客への新型コロナウイルス感染への不安はありますか？（複数回答可）

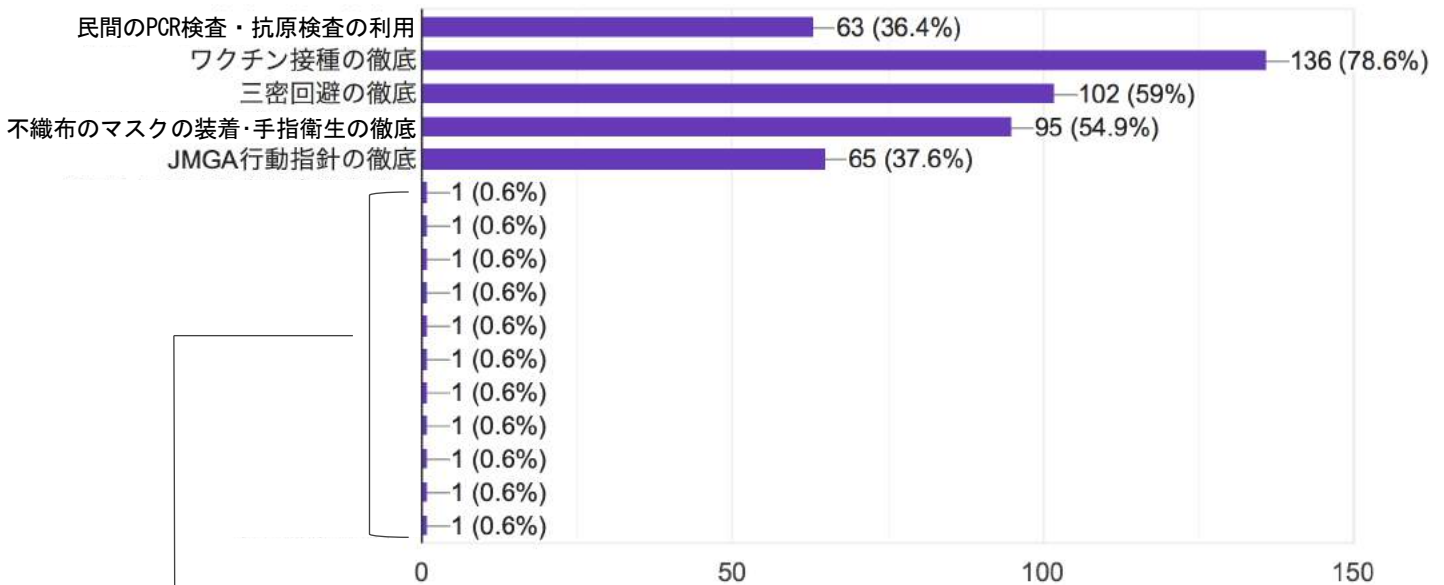
174件の回答



- 地域の感染状況を常に注目し、不安がある場合は実施していない
- 不安はあるが、山の中は風も有り、密集を避けて行動できる。
- 地域差があるでしょう。質問への返答が難しい。
- 不安はあるが十分な事前チェックと感染防止対策により予防
- 雷や滑落の方が怖い
- 変異型の感染が増えているので不安を感じます
- きちんと対策を行っている

21. 今後ガイド業務を健全に行うために必要な対応はどのようなものと考えますか？（複数回答可）

173件の回答



- 新型コロナウイルス感染症に対する妥当な理解とその周知。
- 今の感染防止対策では完全に感染します
- 山岳ビジネスの社会への正しい情報開示
- ワクチン接種以外に手立てはないと思う
- コロナに対する自己意識を強く持ち、実行することのみ。
- PCR検査絶対信仰に基づく政策をやめる訴訟、著名運動など
- マスメディアに左右されない事。
- 自然の中での野外活動は心身の健康に良いという前向きな情報をもっとアピールすること
- あきらめ
- 少人数制の催行
- 普通に仕事をする

22. ガイド業においてコロナ感染予防に対して障害や難しさを感じる点はどのようなものですか？

125件の回答

- 見えない、増減が読めない、個人によつての捉え方が極端に違う
- 検査の徹底がされていないことに不安を感じる
- マスクの徹底やフィールドでの手指消毒
- 顧客間の意識や考え方の差異、多様性
- 休憩／飲食中の会話への注意
- 共同テント利用での山行が出来ない
- 注意意識をしながらも動きたいお客様は多い現実の中、どれだけ業務を抑えるかはガイド側の自主規制による部分が多い。実際どんな状況下でも声をかければお客様はある程度集まるのが現実。飲食店等と違い、公的に自粛要請が来ているわけではないので、ガイドや旅行会社の意識による部分が高い。それだけに思うように仕事ができない現実がもどかしい。
- 昨年よりも山では感染予防に気を遣わない人が多くなっている。自分と顧客とで感染予防意識の違いを感じることもある。
- 顧客に未発症の陽性者などがいた場合のガイド中の接触による感染は不可避ではないかと思う
- 山中で病状が悪化した場合の対応
- 山小屋や施設によって対策の温度差があり、かなりゆるい施設も時折見受けられる。
- ツアー中の感染防止対策へは理解して頂けるが、居住エリアの違いにより意識の差が見受けられる。
- 山行中の有事の際に、現地の救急や医療に負担が大きい
- グループを扱う場合のコミュニケーション方法。
- 交通機関を利用する移動時での感染予防。
- お客様個人ごとに、コロナに対する考えが違うこと。
- お客様の山行減少によるトレーニング不足
- マスク対策 移動中の密
- 緊急事態宣言地域に指定された場合の対応
- マスクしていると顧客の表情が見えない
- 雨の日はどうしてもお客さんとの距離が近くなる。
- 仕事ができているから何も無い
- 予防効果よりもリスクの高い感染対策を立場上強いられること
- 顧客が減って困る
- 行動中のマスクは困難
- 無し
- マスクが息苦しい
- 気をつけていても顧客との距離や、やりとりが密接（近く）になる場面がある。とくに、従来型に比べ感染力が非常に高い変異株が猛威を放つ現在、とくに難しさを感じます（理想論としては・・・業務自体を控えるべきではないかという考えとの葛藤）
- 山頂や小屋での密状態の回避が難しい
- マスク着用しているにしても、クライアントに手の届く至近距離で向かい合って会話する場面が少なくない。
- 宿泊を伴う場合の部屋割りや食事のテーブルの割り振り。
- 山小屋泊 換気の難しい空間なので個室以外は疑問。
- 歩行中のマスク着用、車両の使用率制限(以前より定員を減らしている)
- コロナの特徴から、今やっているコロナ対策が絶対に予防になっているとは言えないところ。
- 緊急宣言が出ている都府県でありながらツアーで来られる人は困る
- 山小屋泊 換気の難しい空間なので個室以外は疑問。
- 仕事をもらうガイド会社のトップが、対策を打ち出したがり行っているつもりみただけど、全く出来ていない
- ワクチン終了後に、復活なるか
- マスク着用での案内は声が届かず無理です。
- 完全隔離ができない以上感染はやも負えない マスクアクリル板は建前上のものである
- ガイド側とお客さまの認識が違う場合
- マスク着用による意思疎通の取りづらさ。
- お客様とガイド間では感染拡大予防に対する意識の温度差が違う
- 不特定多数を案内すること
- 会話が聞き取れない時に近づいてしまう。お客様の食器を触るとき
- お客様や宿泊施設によって、参加や受け入れの意識や感染症対策の意識が異なっているため、直前まで予定が確定させにくい。
- 登山中のお客様間の間隔を空けての歩行。
- 顧客と密になりやすい状況が多発する
- 宿泊のツアーをキャンセルすることになってしまったこと
- マスクの常時着用
- 宿泊ツアーの避難小屋の現状では感染予防は難しい。
- 山小屋の生活、食事と寝る所の密
- ガイドが登山・解説時のマスク着用が苦しい
- クライミングの時はどうしても距離がちかくなる
- 三密回避になる機会が度々あること。
- 不織布マスク着用にこだわり過ぎるあまり、二酸化炭素摂取過多や熱中症にならないか、気を遣います。
- ウイルスが付着しているかもしれないマスクのつけ外しの意識の甘さを徹底できない
- 車内の三密
- 各人の意識の違い
- コロナ疑いがあった場合の相談先の確保が心配
- 安全面から休憩時の密な状況は避けられない場合がある

〈次のページへ続く〉

- マスクをしていると、声が届きにくい。聞きにくい。
- お客様によっては宿泊と伴う山行を今の状況では敬遠する方もいらっしゃる
- 解説時やサポート時のお客様との距離感
- ①顧客との会話が前提なため、完全な予防が困難。②山小屋での感染予防が徹底しにくい
- PCR検査などの客観的な判断材料がない場合、自身を含め引率グループの中に感染リスクのある方をの有無を正確に判断できない点。
- 登山のリスクの正しい情報開示
- 三密、行動食中の会話
- 人によって予防への考え方・意識が違うこと
- 自粛要請により行動が出来ない事
- 顧客満足度と、感染予防のバランス
- 食事の際の感染リスク
- お互い体調が万全でなければ、ガイド業務ができない
- 一般の登山者の気の緩み。
- 顧客との距離、夏場の登山中でのマスク着用
- もうガイドそのものを辞めるつもり 今年夏も今の状況かわらなければ、ガイド資格の更新はしない（出来ない）
- 顧客の自己申告を信用せざるを得ない。
- 行動中のマスク着用の対応等
- お客様個人の見解の違い。
- 暑い季節のマスク着用
- 人との間隔の取り方、自分の飛沫防止（マスク着用）
- 自然解説やコミュニケーション
- 食事の際のコミュニケーション
- 特に人数が多い場合のマスクをしてのご案内
- 体温検査やパルスオキシメーターだけでは感染者が分からない？
- 山はオープンエアだから安全といいつつ、もしもの事故の際にひっ迫している医療現場にさらに負担をかけてしまう負目
- 施設の休止や閉鎖
- 無症状感染者は見分けがつかない
- ソーシャルディスタンス。狭い登山道やショートロープ時の人の間隔、ソーシャルディスタンスを真に受ければ安全確保に支障が出る。
- 顧客の理解度の把握
- 顧客の感染症に対する意識の温度差
- 野外については問題ないと考えていますが、山小屋や交通機関の利用においてはこちらで対応しきれない難しさがあると感じています。
- マスク着用での運動は難しい
- 他パーティーとの接触
- 参加14日前からの体温チェックと、手指衛生の徹底と、換気で対策は十分なので、難しさはない。
- 特になし
- お客様のマスク着用をどの様に指示すらかが難しい。
- 登山中のマスク着用。特に登り。
- こうしていれば感染しないという方法はなく、登山は所詮レジャーの範囲であり、世の中の優先順位的には低位なのだと思う。
- 危険個所などで密になることは避けられない。ロープ使用や補助など密になるからと言って、避けることはできない。
- 特になし
- 顧客の体力維持不足
- 体調の変化が起きた場合、寝食を伴う場合
- 本当に発熱がないのか濃厚接触の可能性はなかったのかなどお客様の申告だのみなので不安はある。山の中では対策が緩みがちに感じる。
- マスクをしての歩行が困難なこと
- 山といえどもどこで感染するかわからない
- マスクを着けての登山・クライミングは息苦しく余計な体力を消耗する。
- 仮にPCR検査で陰性結果だったとしても、移動中に感染の可能性が否定できない、とか。
- 感染していても無症状の人がいる
- 昼食で山ごはんを参加者でワイワイ作るなどできないこと
- 行動前、行動中の注意喚起の際の飛沫予防
- 参加者が主催者の感染恐れより「心配していなく」主催者として、そこが心配。」
- お客様個々のコロナに対する意識に差があること（とても気にする人とあまり気にならない人が一緒に行動すること）
- その機会がない。
- 狭い登山道は人と近くなりやすかったり、一定の距離を取りながら歩くにもなかなか難しいです。
- 緊急事態宣言と地域差
- 移動交通手段に関して
- ソロでキャンプや登山に行く人が増えていること。素人のひとこそ、ガイドを使ってほしい。ソロよりもガイドを雇ったほうが（安全面、感染予防面でも）よいということが周知されていない
- 初めて出合うクライアント同士のコミュニケーション
- 顧客の予防に対する温度差
- 変異株の感染力がコミュニケーションを阻害すること。
- 感染対策と利便性のバランスに個人人でばらつきがある
- 10%の登山者は登山をやめており、2年で激減

23. JMGAが出した「新型コロナウイルス感染症 拡大防止のための行動指針」についてガイド業務に参考になった点を教えてください。

75件の回答

- 感染防御に必要な装備
- 全て
- 実施に当たり、説明しやすくなった
- 全体的に行動指針が分かりやすかったので、参加者への注意事項、健康チェック表などに使わせてもらいました。
- 感染防止のためのチェックシートなどを活用中
- すべて参考にさせて頂いています。
- 色々参考になっていますが、特に具体的なガイドレシオ抑制の目安を提示頂いたこと。
- ガイド業務はスタイルが多様なので一概に言えない部分もあると思う。対個人とツアー用では行動指針が変わる。
- レベル、行動時間、人数等を明示してくれたこと。
- 行動指針を随所でお知らせいただくことによって、その都度いろいろなことを考えるきっかけになっています。
- 仕事ができているから参考にしようが無い
- それなりに参考になる
- STEP別のレシオや行動時間等の指針など。
- 「山行中の行動指針」
- 今回のような事態が無かったので個人の判断だけでは決めることができない中、指針があること自体が助かります。
- ガイドレシオ
- 感染対策について早めの対策、出来れば緊急事態宣言のでた所の人の受け入れは、厳しいですが拒否する対応で行きたい
- 参考になったものはたくさんあったけど、gotoトラベルで全部むちゃくちゃになった感じがある
- 新型コロナ終了後まで、あきらめている
- 気休めにしか読んでない
- 行動指針があれば、お客さまにも理解して貰い易い
- 段階的な対応方法について
- 除菌シートやビニール手袋複数枚の携帯、適宜除菌すること
- 登山やガイド業務に精通された感染症専門医の方の提言のため、感染症専説得力がある点。
- お客様への説明や説得の際の指標になる。例／ガイド協会では対策プロジェクトチームを結成しマニュアルを作成し感染対策への呼び掛けや注意喚起を促していますので……等
- 三密を避ける
- 三密の回避・マスクの着用・消毒の徹底など
- 活動と感染防止の両立の難しさ。
- 実際に重症患者を診られている先生方の医学的な意見
- 登山活動中の行動指針等、感染対策について実際どのような点を注意し、行動すべきかなど参考にしている。
- 特になし
- 顧客との接し方、説明について
- ガイド業務をできるかどうかSTEP毎に仕分けされていて分かりやすかった。
- 全般にわたり参考になっています。
- 指針があり、そこではこうなっていると説明できること
- 近距離山域、小員数でのガイドライン
- マスク着用のタイミングなど
- 感染防止対策を状況に応じて細かく想定しているところが参考になった。
- ガイドに対しても、ワクチン接種を推奨していること
- 明確な行動指針
- クサリ場通過後の手のアルコール消毒
- 指針が示されている安心感が大きい
- ガイドレシオの厳格化
- 登山中の人との距離や感染予防に必要な装備等
- ガイドレシオは普段の半分 ルートは容易なルートを企画
- コロナ騒動から1年たって、インフルエンザレベルということが解かったので、今となっては、参考にならない。
- 全て参考になった
- 指針は必要だし確かにその通りなのだけど、100%完全順守が本当にどこまで出来ているか。。。
- 全体的に参考になりますが、特に感染症に対する医療の専門的な指針など。
- 特にないが一般的に理解できる
- 具体的な数値
- 判断基準となる。お客さんにも説明しやすい。
- 頭の中では分かっていることだが、それを文章化してもらっているのが、改めて整理しやすいし、お客様にも対応・説明しやすい。
- 都度、意識を改めさせられ、緊張感の緩慢防止に効果的です。
- ガイドレシオの縮小、SDの保持、手指の消毒など
- 顧客との距離、ガイドレシオ、基本的な感染予防
- 重症化ハイリスクとなる因子、持ち物、事前を含めたチェックシート
- ガイドレベルの指針が状況に応じてきちんと変動して周知されていることが、お客様への説明でも役立つ
- 内容よりも団体として行動指針を出すことが大切
- その他（なし、すべてが参考になった、全般、等々）

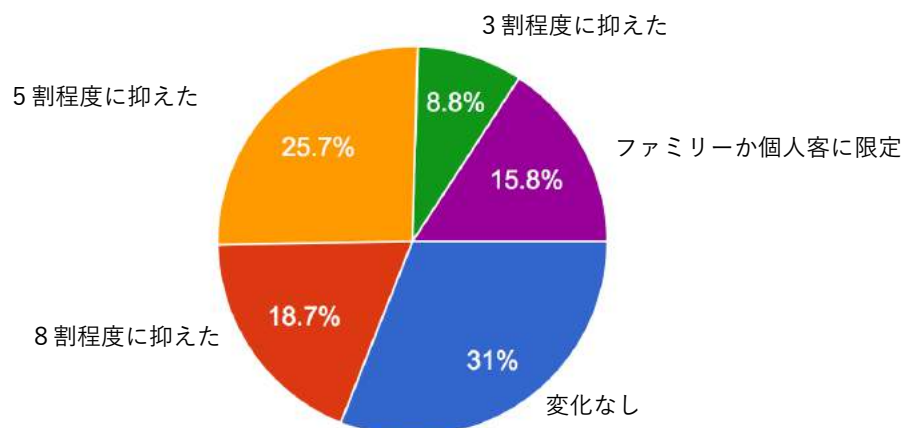
24. withコロナ時のガイド業務において「行動指針」以外に参考にした情報・サイトなどがありましたら教えてください。

56件の回答

- なし・特になし 17.9%
- その他
 - CONEのガイドライン
 - team KOI
 - ニュースなどでの専門家の考え方。
 - 企業の指針
 - 厚生労働省の年間死亡者総数と死因の内訳のデータ
 - 各山小屋の感染対策情報
 - 山中伸弥による新型コロナウイルス情報発信
 - 山岳医療機構サイト
 - 日本登山医学会・山岳医療救助機構

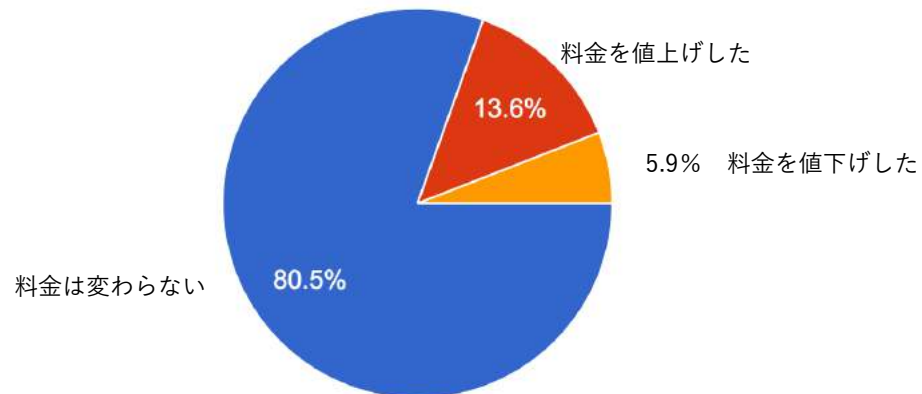
25. withコロナ時においてガイドレシオがどのように変化したか教えてください。 (通常のJMGAガイドレシオと比べて)

171件の回答



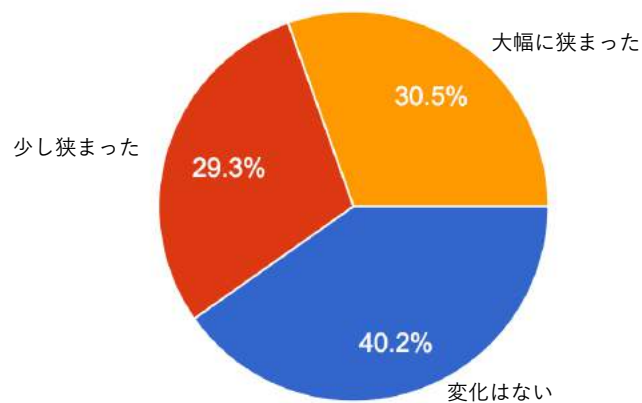
26. ガイドレシオの減少に伴い、ガイド料金の変化はありますか？

169件の回答



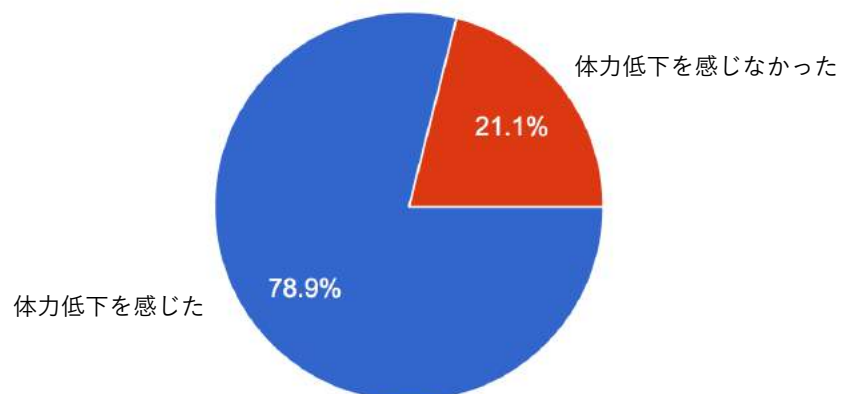
27. withコロナ時において活動エリアがどう変化しているか教えてください。

174件の回答



28. withコロナ時においてゲストの体力について変化を感じましたか？

171件の回答



29. withコロナ時においてゲストの状況について（体力・考え方・安全管理等）について変化を感じる事はありますか？

103件の回答

- 体力の低下を感じる
- 体力や技術の安全管理を意識した
- 体力低下を感じる
- 普段からよく登山をしている顧客と、そうでない顧客の体力差が大きくなっている。
- コロナ禍であっても、そうでなくても「個人差が大きい」
- 東京をはじめとした緊急事態宣言下に住まわれている人たちはかなりコロナに関して意識が薄い。長野を主体に活動をしている私から見ると、その方々たちは来られる方なので、とても顕著に感じる。そもそも県をまたがないようにと言われているにもかかわらず、平気で来るところが既に意識としておかしい。旅行会社も然りである。「県をまぐことは慎む」と言われていることは完全に無視状態。
- 自分と顧客とで感染予防意識の違いを感じることもある。
- 年齢、職業、地域に応じてコロナに対する考え方が違い、ドタキャンなどが発生している。
- ゲストの体力低下を感じる場面が時々ある。
- 全てにおいて、低下を感じます
- 体力：巣ごもりで低下しているゲストがいる。安全管理：体力低下するゲストが増えていることを、事前に伝え無理しないように指導。
- 登山をしない層が増えた
- 体力は明らかに落ちている。
- 体力テストは落ちていると思う。
- 過敏な人もいればそうでない人もいてバランスを取るのが難しい
- 体力や考え方が甘いお客様が「8割」、以前より体力や考え方がしっかりしているお客様が「2割」。二極化している気がします。
- 少数の実績しかないので評価できない
- トレンドやスタンプラリー的に登っているのか、それとも心の底から山に登りたいのかははっきり分かるようになった。
- ない
- 気になる人は来ない
- ストレスが増えている様子
- コロナ感染の怖さは感じておいでながら、チャンスがあれば歩きたいという思いの強さともに、ご一緒すると、「コロナでぜんぜん歩いていないから・・・」と、合言葉のように皆さんの口から発せられます。プランのグレードを抑えめにしているゆえ、実際、顧客における体力の衰えを実感することは正直、あまりありませんが、皆さんとも山行プランとともに体力的な不安は大きいようです。現在のパーティ構成としては、お互い顔が分かる「常連さん」的なメンバーのみで実施していますが、仮に初参加の方や知らない方が加わることにに対する警戒感や距離感はあるようです。
- 感染防止のためにマスクをつけて歩く程度。密を回避する行動をとっている。
- 遠方への移動に抵抗を感じる方が多い、宿泊を避けて日帰り登山
- あります。
- 消毒等の持ち合わせが不十分でした。
- 本当に体力かあってくる人もいるが、海外にいけないから山に来る的な、観光地気分の自分の体力をわかってない人が多い
- あきらめ withはないと思う
- 公共交通機関での移動に不安を感じる人が多い。
- マスクをして、息苦しいだけで高山病は屋も負えない状況になることが考えられる
- お客様ま間の体力の差を感じる
- コロナ感染を防ぐ上で、混成ツアーをすることのリスクと安全管理を考えなければならない。
- ある
- 全体的に体力が落ちている。コロナを気にしない人がいる
- 感染者数の多い地域からのお客様は申し訳なさそうに住所を
- 今までより、少し抑えめのペースや行程にしないと、全体の安全管理、旅程管理に支障が出やすい。
- 登山コースや日程によりキャンセルされる方が増えた。
- 今まで来なかった層の方々が来るようになったことは嬉しい
- とくになし
- やはり高齢の方が多くので皆さんかなり消極的になっています。
- 体力の低下を感じる反面、従来行っていた登山を望まれることもある。
- 1月からの緊急事態宣言においては、体力差が大きかったでした。
- ソーシャルディスタンスの感覚ができていて 体力低下を嫌いより山に行きたい人と出かけると感染すると思いき山に行かない人にと二極化した
- 医療従事者はほとんど参加しなくなった、家に年寄が居る方も参加を控えている、山行での越境も嫌がる。
- 安全管理面においてガイドの需要は高まっていると感じる。
- トレーニング回数の減少により、ヒヤリハットが増えていく。スケジュールに、より余裕が必要と感じる。
- 手指の消毒、山小屋内での過ごし方、三密回避が浸透している
- 体力が落ちている
- ストレスがたまっている
- 受け止め方が千差万別

〈次のページへ続く〉

- 泊数の低減化⇒遠くより近場へ。休日よりも平日志向。電車よりはマイカーで。など
- 全体的にゲストの登山や運動低下しているため、体力不足に起因したトラブルが多くなった。
- 山では大丈夫の意識が高い
- 人によって体力の差が激しい
- 参加者は感染予防に気を配っている
- 感染予防の意識のある人、少ない人がいた
- 人によって自粛の受け止めがかなり異なる
- お客様のの体調が万全でなければ中止する
- 顧客の体力が格段に落ちた
- 登山を避けている方が増えている
- 体力低下 歩けていない
- 自分は大丈夫との意識がある。
- この状況下において山に来ているゲストはむしろ山は安全という認識で感染対策が不十分になりがち。
- ゲストの体力
- ある
- 安全管理ではお客様体力、気力低下を前提で、気使い多し
- 感染予防
- 体力の低下、人によりコロナに対する考え方が違う点
- 体力に不安を持つ方が多いようだ
- 特になし
- 体力低下の度合いによるプレパレーションの必要性
- 顧客が離れる
- 感染拡大防止について各自でしっかり対策をとってくれている
- あらかじめ物品のやり取りを現場でしないよう通達しても行動食などを休憩時に配ってしまう人が後を絶たない。断りにくい。
- 体力・考え方・安全管理・活動エリアに変化
- 特にはないが山歩きは感染リスクが低い遊び（スポーツ）と思っている方が多い
- やはり運動不足になっているゲストがみられます。
- 普段より体力が落ちている 安全管理に非常に敏感になっている
- 行政、報道に洗脳されている。自分からコロナの不自然を考えていこうとしない。
- 体力より精神面において、ストレスを抱えている人が多い
- 近所の目があり、思うように山へ行けないそうです。
- ゲストはマスク&手洗い等をこまめにしているので、少し安心
- コロナへの危機意識が低い
- 色々な価値観・順守協力度/理解度の差がどうしてもある。
- コロナを機にやめた方。体力・気力のために山行を抑えながら続けている方。に分かれたように感じる。
- 誰もそれなりに注意していると思うが個人差はある。
- 注意力が散漫になっている
- 消極的な人もいる
- マスク装着のまま登る人もいる。クルマ乗り合わせでは全員マスクか各自クルマでの移動への理解。
- 近間の安全登山を考えている
- 個人で消毒液など持参して気を付けている人がほとんど。すべてガイド任せでなく「イベントに参加したい」＝「自分で自分の身を守る」という考えの人が多くなっていると思う。
- やはり「万が一感染したら…」ということを経験を理由にキャンセルや参加を遠慮する方も多い
- 山行回数減少による体力、準備不足(忘れ物含む)
- 特になし。感染対策装備説明に、理解されている。
- 山小屋泊の登山は控えている方がまだ多い
- その機会が少ない
- 顧客が離れる
- 体力の不安、宿泊より日帰り傾向がまだあり、山小屋さんの宿泊は躊躇されている模様で、山の下での宿泊だったらという考えの方も多いです。
- 高齢者の顧客は減った。山で何かあったら医療に負担がかかるというかかるという、もしも論を出されてしまったら受け入れざるおえない。
- 行き先や利用するお店や、一緒に活動する他の参加者のことなど、気にされるようになった
- 有
- 体力の衰えについてより注意を払うようになった
- 完全自粛とワクチン接種までは行かない等

30. ガイド業務再開に際し問題になっていることがあれば教えてください。

64件の回答

- 参加者が在宅地より目的地に向けて、移動しにくい環境。風評被害的、県またぎ、などの理由で。
- 受け入れの際のPCR実施など、タイミング次第であまり効果がない気がして不安が拭いきれない。
- 山小屋の予約が取りにくい。
- 今後ガイド料の値上げを検討しているが、ガイドレシオの変化とガイド料値上げの実態を知りたい。
- 緊急事態宣言発令などで、予定を立てても中止になるなど、先の予定が立てられない
- 今までのガイド業務の手法や登山の手法を変える必要があるのか？全く違った方法になるのか、3年も待てば以前のような方法で登山ができるのか？個人的には時間が経てばすっかり以前の山登りの仕方に戻っていると思うので、状況が改善するまで待つ以外にないと思っている。
- 引き続き、感染対策を継続。
- 緊急事態宣言、不要不急の外出の自粛、都府県境を超えた外出の自粛と言われると、基本はガイドはできない。その期間が短縮されたり、延長されたりすることも多いので、対応するのに非常に手間がかかる。
- 緊急事態宣言において、ツアー会社によって中止か否かが違う点が不思議。統一すべき。お客が他社に流れかねない。
- 廃業するのが先かもしれない
- ガイドのモチベーションが下がった
- 月末まで延長された「まん防」地域に居住しています。顧客は緊急事態宣言中の都内在住の方も多くおいでです。国や自治体により、さかんに「外出自粛」や「都県をまたぐ移動の自粛」が呼びかけられているなか、業務とはいえ、山行お誘いや実施をしていいものか、つねに葛藤があります。とりあえず2月7日までの緊急事態宣言中も、4月11日までの「まん防」期間中とも、ガイド業務はすべて自主自粛（実施せず）としましたが…。さて11日以降どうするかをいまだ思案中です。これは感染力が高い変異株の脅威を懸念してのことです。また、首都圏からの来訪者が他県であまり好ましく思われていない（とくに行政による制限措置がとられている地域からの…）現状で、あえて県外へ出かけていくことに対する後ろめたさ等々。
- 登山口までの移動でコロナにかかりそう
- 家族に、肺疾患を患った人が出てしまったこと
- 旅行会社とも疎遠になってしまい関係修復は難しい 担当者も変わってしまったなど
- 一人旅顧客の受け入れ。
- 来る人を選べないので自衛しかない
- アルペンルートはケーブルカー、バスも乗車するので感染の不安があります。
- ・緊急事態宣言発出の度にガイドの催行率、参加率が低くなること。・ワクチン接種が進んでおらず、ガイド、お客様、宿泊施設、ともに安心感が薄い。・今後、さらに強力な変異株に変化しても、現状の感染症対策で活動し続けられるのか？
- 登山中の発熱や体調不良が発生した場合の対応方法。
- 指針に沿った対策を講じても顧客の不安を拭いきれないこと
- 宿泊関係をどうするか検討
- ゲストのコロナ過での参加の遠慮
- 集客
- 感染の封じ込めができなければ再開はできないと考える。
- 今のところ特になし。
- 山小屋の営業云々で、仕事量が変わる
- 集客が以前より厳しくなっていると感じる
- 特にありません。
- 顧客のワクチン接種状況が自治体間でも差があり懸念される
- ツアー会社の指示を待つのみです、オリンピックの再開で顧客の減少があるか、
- ツアー会社のキャンセル
- 宣言下での自粛するか活動するか
- 山小屋のキャンセル料問題。雨天でも決行せざるを得ない。
- 山小屋利用料の課題
- 仕事がない
- マンボウとか、直前に出るため予定が立たない。
- コロナの終息状況
- 旅行会社ツアーとの関り。宣言が出てしまうとすべてキャンセルとなるので。
- 山小屋情報、アプローチ登山道
- ワクチンの摂取進行
- 先が見通せないこと
- クライアントが登山を控えてガイドを依頼しない傾向がある。
- 顧客の体力の掌握
- 変異株の件もありますのでワクチンが大優先
- 職能範囲外ガイドが横行している事
- 顧客の登山への意欲低下、関心の低下。
- 登山姿に、見る目が気になることもある。
- 自分の年齢
- わたしのような無名ガイドは、ただでさえ集客にハードルがあるのに、コロナでさらにハードルは上がっているのかもしれない、と感じている。
- ワクチン接種がいきわたれば、また少し違ってくるかと思いを期待しています
- 特になし（可能な範囲で行っているの）
- その機会が少ない
- なかなかお客様が集まりません。
- この様な中専門ガイドが、必死に工夫をして催行しているガイドを、他のガイドがネットやSNSで行為や、営業行為などの指摘したり否定しているものをたまに見る。身内が身内の足を引っ張っているのかが悲しい。潜在的顧客がそのようなガイド同士のやりとりを見ると、一枚岩でない協会なのだと思わざるおえないと思う。
- その他（なし、特になし、等々）

3 1. 行動指針・ガイドライン・協会運営等に対してご意見がございましたらお願いいたします。

49件の回答

- 緊急事態宣言中のお客様はガイド山行に参加してよいのか？ ガイドは仕事だが、お客様にとってはレジャーなので一般的には不要不急に値するのでは？ ガイドラインも特にないので。
- 作成に感謝しています
- 29で書いたように、緊急事態宣言下のガイドや旅行会社は県をまたいで活動は控えてほしいと願う。地方は他県から人が来ることによって感染状況が悪くなるのは明らか。JMGAとしても、そこははっきりと謳うべきではないでしょうか。
- 5月7日付けのお願い文章のような書き方は正しく恐れる手助けになり良いと思いました。顧客に説明する際にも納得しやすいかと思います。
- コロナ対策よりも、国家資格化に向けて早急に取り組んでいただきたい
- もうしばらくは現状のモニタリングが必要ではないかと考えています。当面は現行行動指針とガイドラインをベースに業務継続したいと思います。
- 可能でしたら、緊急事態宣言のときはガイドは自粛、都府県境を超えた外出の自粛と言われるときはそのようなガイドは自粛など、はっきり線引をしていただくと助かります。現状では実施するとなるとクレームがくるし、自粛するといってもクレームをよこす人がいて、その対応に不毛な労力を費やしています。協会のほうでこういう指針を出している、と説明できると助かるのですが、どうでしょうか？
- 今後も情報発信をお願いします！
- ワクチン接種と治療薬の開発で解決されることだ。
- マスコミ報道等で飲食関連の厳しさは盛んに報じられ、十分ではないにしろ制限区域においては制限期間中の補償や支援もありますが、ガイド業務はじめ旅行業の現状に関して触れられることは、飲食やイベント関連等に比してあまりに少なすぎると感じています。昨春、コロナPT行政対応班が政府への働きかけをされたように、いまいちどガイドの窮状とともに、「このような感染対策を施して業務を続けています」「顕著なクラスターなどは発生していません（発生していないですよね）」等、社会全般に業務への理解や支援の要請を訴えていくことも必要ではないでしょうか。
- 団体として指針を示していただけるのは大変ありがたいです。
- 協会はお金を集金するばかりでリターンがないというガイドが多く休会とかしたほうがいいのかよく耳にします。私は山の団体がなくならないように寄付のつもりで払っています。
- ワクチン接種、変異株への対応などで新たな追加項目があれば、改訂版をお願いしたいです。
- 行動指針の策定、ありがとうございました。
- (協会運営とは関係ありませんけど) 1月からの緊急事態宣言の際、内容を読んだ上で仕事をしていました。しかし、所属団体において、仕事をしていることについて、罪の意識を感じさせるような雰囲気嫌でした。副業や定年後に行なっている人なら仕事を全て中止にできるでしょうけど、専業だと彼らと同じようには出来ません。専業が肩身狭い思いをする雰囲気に、違和感がありました。当然、話し合いにならず、専業主体の人たちが多い団体へ移りたいです。一時支援金は敷居が高過ぎて、対象であっても、申請する気になれません。
- 引き続き、ワクチン接種が進んだ際等の変化に合わせたアップデートを期待。
- 研修のオンライン開催などを検討して欲しい
- 集客方法を学べる講習会等があるとありがたいです。
- 特にありません。適切な情報発信に感謝しています。
- ガイド・顧客のワクチン接種徹底が業務再開の最低条件ではないか。
- 参考になっています、今後も続けて下さい
- こんな状況なのに会費は100%徴収するのか せめて50%位に低減すべき
- 今後とも、情報提供をよろしく願います。
- いつも気にかけていただき、ありがとうございます。
- 私達はガイド協会の指針を大切に行動しておりますので情報は早めをお願いします。
- なし感謝している
- 現況を早めにお知らせ戴けること
- 厚生労働省の年間死亡者総数と死因の内訳のデータなど、コロナの不自然な状況から、行政の施策、報道の煽りは明らかに、不当であるのに、当協会は会員の利益を守るステイクホルダーとしての動きを全く行わないのが大変不満。
- ワクチン接種においてはメリットがあるかもしれないがそれ以上にデメリットがある。考え方は様々なはずなのにたった2名の医師の意見で接種について推奨するような配信をするのはおかしいと思います。
- 特にないが、研修費の出費などがキツイ。定年制は続けて欲しい。
- 体力維持(健康)・生きがい・喜び・ストレス解消・・・この時期だからこそ、自然に触れ合う大切さ大事にしたい。
- 仲間(ガイド)の中にも安易に考えている人もいるが、ガイド中お客に感染者が出たら信用は失墜しもうガイドは出来なくなるぐらいに考えてほしい
- 経営相談、販路の拡大、補助金・資金の相談など、商工会が行っているようなサポートを会員が気軽に相談できる窓口が協会にあるといいかな、と思います
- 引き続きよろしく願い申し上げます。
- このような中で、運営ありがとうございます。政府や政治でさえこれと決まった事を言えない中での差配大変だと思います。もっとわかりやすい言い回しが必要かとも思います。この環境が1年過ぎました。協会費を1円でも安くすることなどの対応も必要かとも思います。100年に一度の危機であれば、協会もそのような対応をするべきかとも思います。
- その他(なし、特になし、等々)

ご協力いただきましてありがとうございました。

21件の回答

- ウィズコロナにより、活動範囲が広がった。海外や国内登山の代わりに、テーマを持った登山やネイチャリング、島旅に軸足を移したので、活動に変化はない。これまでの登山一辺倒よりも行動範囲が広がり、今後のあり方にもつながっている。
- 厳しい状況が続いていますが皆さまどうぞ自愛下さい。
- 大変お疲れ様です。がんばりましょう。
- お疲れさまです。よろしく願いいたします。
- この先何年登山が停滞するかわかりませんが、儲けている人は儲けていると思います。自分が淘汰されないように頑張らないと思います。おとしが山の収入が一時的に落ちていたので緊急事態の給付金が少なく前年度とされたことは痛かった。などなど。今年は保証もないから痛いです
- 引き続き情報発信をお願い致します。
- これからも、よろしく願います。このようなアンケートを取っていただける気遣いに、感謝しています。
- ガイド業務は少人数5、6人での山行、現金のやり取りで税務署には申告していない、寄って持続可給付金を申請出来ないが、明らかにガイドの仕事は2/3は減っている。
- ありがとうございます。引き続きよろしく願います。
- 協会はなにもしていなものと同じである。失望だけ
- 以上、宜しく願い致します。
- もろもろ参考にさせていただいています
- 多様な考え、少数意見を尊重、取り入れるべき。
- その他（ありがとうございます、ご苦労様です、等々）